

刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科考古学研究室では、主として京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）を利用し、京丹後市教育委員会、京丹後市久美浜町須田区、京都府立丹後郷土資料館などと共同で、湯舟坂2号墳をはじめとする一帯の古墳の調査研究をおこない、その成果を地域資源として地元還元する取り組みを進めてきた。「湯舟坂プロジェクト（湯舟坂2号墳プロジェクト）」と称して、学・公・民一体で進めてきた一連の取り組みは、2020年度の湯舟坂2号墳出土品に対する再調査に端を発し、2023年度からは須田平野古墳の発掘調査という形で発展を続けており、本書はその中間成果報告ということになる。

本書の核となるのは、2021年度より3年連続で地元久美浜において開催した、京都府立大学ACTR成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳」であるが、本書にはそれをさらに発展させた内容や、そこで取り上げることのできなかったテーマも収録している。目標に掲げた文化遺産（古墳）の地域資源化はいまだ道半ばであるが、本書を通じて多くの方にこの地域の豊かな古墳文化を知っていただき、できることならば一人でも多くの方に現地にある古墳へ足を運んでいただければと思う。

最後に、京丹後市教育委員会の諸氏ならびに須田区自治会・ふるさと委員会の皆様をはじめとする本プロジェクトに関わったすべての方々に満腔の謝意を表したい。

編者

編集後記

2020年に始まる「湯舟坂プロジェクト」は早くも6年目に突入している。教員生活のほとんどを久美浜に捧げてきたといえば大げさだが、府大に着任したのが2018年なので、私だけでなくたくさんの教え子がそれまで縁もゆかりもなかった久美浜に足繁く通ったことは確かである。3回分の成果報告会資料集をまとめて一書にしようと、気軽な気持ちで本書の制作を思い至ったが、皆さんお忙しく、思いのほか難産だった。スケジュールに追われる中、献身的に編集作業を手伝ってくれた二人の大学院生には感謝してもしきれない。

なお、湯舟坂プロジェクト立ち上げ時から一緒に仕事をしてきた、菱田哲郎先生が今年度でご退職される。まだ隣の研究室には山積みの荷物があるので実感がわからないが、1994年に開設した府大考古にとって最大の岐路であり、寂しい限りである。様々な仕事を通じて文化遺産の地域資源化の重要性を教えていただいた学恩に感謝するとともに、兵庫県と接する久美浜にこれからも足繁くお越しいただければと思う。(い)

表紙写真

- 上左 双龍環頭大刀調査風景（諫早直人撮影）
上中 第2回 ACTR 成果報告会風景（栗山雅夫撮影）
上右 「つなプロ」風景（諫早直人撮影）
下 湯舟坂2号墳出土双龍環頭大刀（栗山雅夫撮影）
裏表紙写真 湯舟坂2号墳全景（南西から。栗山雅夫撮影）



京都府立大学文化遺産叢書 第33集

地域資源としての湯舟坂2号墳

- 編集 諫早 直人（京都府立大学文学部准教授）
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
<https://kpu-his.jp/>
発行日 2025年3月6日
印刷 北斗プリント
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2